

第 6 回学会賞（実践部門）の実践内容と受賞理由

1 ライオン株式会社

——健康経営的観点にもとづく、従業員に対する全社的健康指針の展開

(1) 実践内容：健康経営的観点にもとづく、従業員に対する全社的健康指針の展開

ライオン株式会社は、創業以来従業員を会社の協同者と捉え、従業員の健康は従業員本人および家族の幸福の礎であるとともに、会社の健全な成長を支える経営の基盤であるとの考えに立って、健康で活力のある会社を目指す健康経営を実践してきた。具体的には、経営層の積極的主導の下に全社健康指針を策定し、人事部健康サポート室（産業保健担当）と健康保険組合が全社的に健康増進活動を積極的に展開し、メタボリック該当者の減少など健康リスクの低減の成果を実現した。

(2) 受賞理由

同社の取組には、健康経営の優秀な事例として、次の優れた特徴がある。第一に、経営層が健康面の全社的ビジョンたる、健康指針の策定・展開に積極的に関与し、それをもとに事業展開の具体化とPDCAサイクルのマネジメントを行う、健康経営の徹底を実現する土台を作ってきたことがある。第二に、全社健康管理責任者（人事部長）と人事部健康サポート室、健康保険組合による健康管理推進委員会が推進主体となって、従業員とその家族（家族の健診受診率は70%以上）に対して啓発活動を初めとする健康増進活動を長期継続的にかつ組織的に展開する実行体制を構築し、それを継続したことである。第三に、産業保健における産業看護の重要性を認識し、対象者一人一人の顔がわかるきめの細やかな産業保健を考慮した看護師・保健師の配置を行って、対象者とのコミュニケーションを計る措置を講じて、多くの対象者の健康行動の継続を実現していることである。

2 慈恵会

——「従業員の健康度」と「業績の向上」を同時に達成することを目的とした取り組みの展開

(1) 実践内容：客観的メンタルヘルス指標を活用した健康経営戦略の実践

慈恵会は、青森市を中心に保健医療事業および高齢者福祉事業を展開している。2009年より健康感の共有による組織風土の改善や組織忠誠心の向上を目指す健康経営を実践し、組織健康度の上昇と業績の向上の両方を実現した。

組織の課題発見と対策立案のために、客観的なデータ分析を行った。リハビリテーション部門において、“見える化”が難しいとされているメンタルヘルスの健康度を数値化し、それを組織改善に活かす試みを開始した。「健康度の見える化や組織風土の改善は、いずれも経営層の役割で外部委託するものではない」との従来の観念に捕らわれず、健康度の数値化ならびに組織風土の改善について外部委託することとした。それらを使って、組織風土の改善を具体的に実践し、組織健康度の上昇と業績の向上という成果を上げた。

(2) 受賞理由

健康経営を実施するためには、他の経営課題と同じく、課題の発見、目標の設定、対策の実行、結果の検証、改善の継続というマネジメントサイクルが不可欠である。本件健康経営の実践は、リハビリテーション部門についてその必要なマネジメントサイクルを理想的に展開している。

経営層がメンタルヘルスの見える化をする際、客観性を担保できず結局は職員の納得を得られなかったり、職員から「(経営層が自分たちの)利益を優先しているので改善に協力したくない」と非協力的だったりするリスクを考慮し、メンタルヘルスの見える化と医療組織改善を業務委託している。事業展開にあたり、マネジメントサイクルの最初の過程は問題発見のためのデータ分析であるが、その指標の客観性を担保し、従業員とのコミュニケーションをより効果的に計るために、外部の専門家を巧みに活用している点は注目に値する。

3 鶴岡市からだ館がん情報ステーション

——市民・患者のがん予防から終末期に至る自己決定を支援する地域協働事業の展開：地域住民の情報ニーズに適合したコミュニケーション活動

(1) 実践内容：地域住民の情報ニーズに適合したコミュニケーション活動による、市民・患者のガン予防から終末期に至る自己決定を支援する地域協働事業

鶴岡市に所在する慶應義塾大学先端生命科学研究所が地域の拠点として「鶴岡市からだ館がん情報ステーション」を設置し、次の地域連携事業を展開した。からだ館は、2007年11月、鶴岡市を含む庄内地方在住の一般市民や患者・家族に、がん治療や術後の生活等に関する情報を多面的・多元的に提供する目的で、鶴岡市と慶應義塾大学、東北公益文科大学の三者が共同管理・運営する公共図書館「致道ライブラリー」に開設された。からだ館は、社会啓発拠点と大学施設の連携による地域住民の情報ニーズに適合したコミュニケーション活動を、行政機関、医療機関、地方銀行の支援・協力を得て、進めてきた。

①地域住民のニーズ調査と課題特定

2006年に対象地域である、山形県庄内地方において、住民ニーズを探る質問紙調査および医療者を対象とするインタビュー調査を行い、事業の取組課題・目標を特定した。地域の医

療者対象のインタビュー調査では、患者や家族向けのセミナー開催や地域の過剰が困ったときに相談できる窓口が必要である、患者と医療者の間のコミュニケーションがうまくいくよう支援する形での情報提供を求める声が多く聞かれた。このため、単に書籍や資料を揃えて情報提供をするだけでなく、むしろ人を介した情報提供の場づくり、特に医療者や一般市民を巻き込んだ形での情報提供を実現することが課題であることが明確になった。従って、がん疾患や治療法、術後の生活等に関する情報を提供するだけでなく、患者や家族の自己決定のための相談・支援をすること、同じ悩みを持つ人の出会いの場を提供すること、相談や情報提供を行える人材を地域に育成することの重要性が浮き彫りになった。

②地域協働事業として予防から終末期に至る新しい公衆衛生活動の展開

患者とその家族は必要とする、がんに関する標準的治療・診療ガイドラインの内容とその役割について、書籍やインターネットを用いて、わかりやすい形で伝えることに力を入れた。資料としては、各部位のがんの診断、治療、スクリーニングに関する最新のガイドライン。患者向けにわかりやすく書かれた医学部やパンフレット、専門書の他、インターネット上の資料として国立がんセンターがん情報サービス Minds 医療情報サービス等のページも活用した。同時に、患者や家族の闘病経験といったナラティブな情報を揃えることにも力を注いだ。所蔵する蔵書の1割以上にあたる150冊の闘病記を取りそろえている他に、全国各地の40余りの患者会の会報を取り寄せファイリングして提供している点にも特徴がある。このような利用しやすく信頼できる最新情報の提供により、患者等の自己決定を支援した。

また、対人支援活動であるがん相談および患者サロンによる患者同士の支援活動形成の支援も行った。2012年度の相談件数は、計62件だった（前年49件、一昨年45件）。相談内容は、治療方法、検査結果の見方、今後の生活等についてが、主であった。2007年11月の開設時からの相談件数はのべ291件となった。患者同士の支援活動を目的とした月例患者サロン「ここにこ倶楽部」を毎月1回、計12回開催した。地域住民・患者の個別のニーズに応じた対人支援を担える人材育成を、大学関係者の支援を受けて積極的に展開し、人材育成に成果を得た。

これらの地域住民の情報ニーズに適合したコミュニケーション活動を実践するに当たって、大学関係者以外に、地元の医療関係者、保健事業を担当する行政関係者、地元有力企業体・組織と緊密な連携を図った。

(2) 受賞理由

地域に対するヘルスサポートには、患者を含む住民が、自らの健康状態に関心を持ち、これを維持し、疾病を回復し、不幸にして回復不可能な病を得た場合には、安らかな死に至るまで、自らの意志によって、そのあり方を選択できるようになること、すなわち患者とその家族そして地域住民の自己決定を支援することが含まれるべきである。

本実践では、綿密な地域のニーズ調査、サービス提供体制の課題分析を経て、その分析・課題設定に基づき、がん患者が自ら意思決定するために必要な体や病気に関する情報を提供する場を作り、相談に乗り、自己決定を支援する取り組みが継続的に行われており、地域のヘルス

サポート事業ととらえることができる。この事業は、市民の意識を変化させて保健行動を変える事業であり、健康経営の実践においてその範囲が明確であり組織活動を動機付け計画的に誘導する展開とは異なり、計画性とその成果との枠組みでは捉えにくい面がある。しかしながら、本事業の結果、住民は得られる情報を得て、自ら学び、その活動によって住民と専門家の連携ができ、「疼痛管理のための麻薬の投与方法を自ら決める」など、地域がん緩和ケアの質を高め、安心して在宅で緩和ケアを受けられる体制が、地域で継続的に組成されている実績があり、患者・家族そして住民の自己決定を支援する、新しいコミュニケーション活動形態となっている点は大いに評価できる。

また、地域連携事業の成功は、多くの場合専門家による強力なリーダーシップのもとに展開されている。本件は、多くの専門家でない地域住民が自発的に参画することによって、事業が展開継続している。事業参加が楽しみになる企画および事業参加する人材育成ならびに情報通信技術を活用してコミュニケーションの高度化を、地域拠点と地元の大学機関が、継続的に行っているおり、非専門家である一般住民・患者が事業の担い手になるように、事業主体が取り組んだ成果が現れている点も、多くの地域に参照価値を与えている。特に、各種資源が少ない地域で大学機関が積極的に関与して、地域の組織能力形成を実現したことは、参考になる実績である。